

「地震・津波観測監視システム(DONET2)」の構築

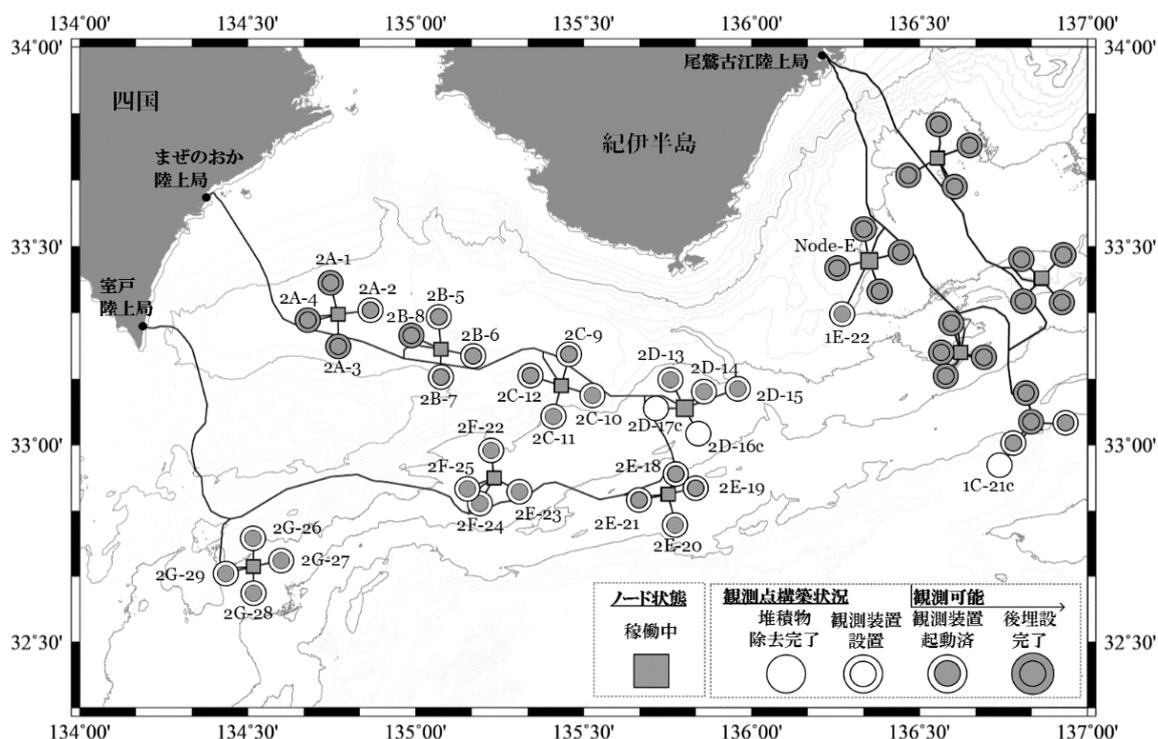
○横引貴史, 川口勝義・荒木英一郎・崔鎮圭・西田周平・松本浩幸・木村俊則・町田祐弥・大木健・岡林功 (海洋研究開発機構), 小寺透・樋泉昌之 (日本海洋事業)

海洋研究開発機構において 2010 年度に始まった地震・津波観測監視システム(DONET2)の開発では、2013 年度から紀伊水道沖・熊野灘において構築作業が進められており、2014 年度末までに海底ケーブル敷設船による基幹ケーブルシステムの敷設、ピストンコア方式による海底ケーシングの設置、および 8 カ所の観測点起動が行われた。

2015 年度は海洋調査船「かいよう」による 3 航海計 112 日間の DONET2 構築航海が行われ、Node 2D の設置(1 潜航)、海底ケーシング内の堆積物除去(14 潜航)、観測装置の設置(17 潜航)、Node から観測装置まで細径ケーブルの展張作業(23 潜航)、および地動センサーパッケージの後埋設作業(1 潜航)を行い、新たに 20 カ所の観測点において観測装置を起動した。この結果、DONET2 ならびに DONET1 の追加観測点 2 カ所を含む全 31 観測点のうち 28 観測点で観測が可能となった。

2016 年 1 月 27 日～3 月 1 日には、今年度最後の DONET2 構築航海となる KS-16-J02 航海での 24 潜航が予定されており、観測装置設置を 3 潜航、展張作業を 4 潜航することで全 31 観測点の起動が可能となり DONET2 構築が完了する見込みであるが、観測機能の向上となる地動センサーパッケージの後埋設作業については 27 カ所の観測点で実施する必要があることから、一部は来年度に実施予定である。

本発表では今年度実施した DONET2 構築航海の詳細と今後の計画について報告する。



DONET2 構築状況 (2015 年 1 月現在)